第４回 沖縄鉄軌道計画検討委員会資料

資料４－３

対策案の検討について

③　フィーダー交通の検討について

平成２８年４月１９日
沖縄県

目次

１．フィーダー交通の検討手順　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　２－１　既存の公共交通ネットワークの確認
　２－２　人口分布、主要施設等の確認

３．骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ　・・・7

1. フィーダー交通の検討手順

フィーダー交通検討にあたっての視点

（1）骨格軸と地域を効率的に結ぶ

（2）既存の公共交通ネットワーク及び利用状況、まちづくりを考慮

上記の視点に加え、持続可能性の観点から採算性を考慮する。

既存の公共交通ネットワークの確認

骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

・人口分布、主要施設等の立地状況
・現況のバス利用状況

について確認する。

ルート案ごとのフィーダー交通の設定

1. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討 — STEP3

2. フィーダー交通の需要等を確認（需要予測） — STEP4～

3. フィーダーの需要等を踏まえ、骨格軸の起点・終点を設定

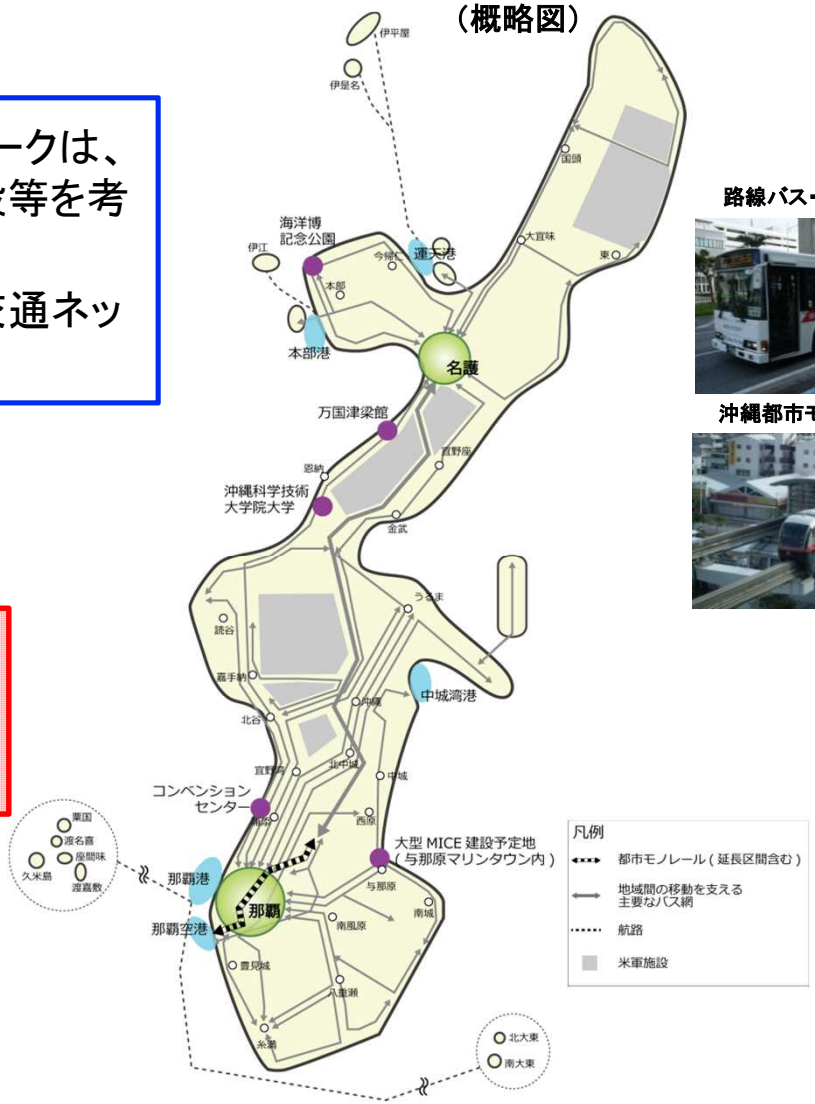
2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

2-1 既存の公共交通ネットワークの確認

- バスやモノレールなど既存の公共交通ネットワークは、人口分布や空港・港湾、集客施設など主要施設等を考慮し形成されている。
- 北部は名護、中南部は那覇を中心とした公共交通ネットワークにより、各地域が結ばれている。

既存の公共交通ネットワークを踏まえ、フィーダー交通を検討する。

沖縄本島のバス系統別路線図およびモノレール路線（概略図）



路線バス・高速バス

沖縄都市モノレール

※図は、同一の市町村間を運行する系統を統合し表示
（太さは系統数・運行本数を考慮して整理）

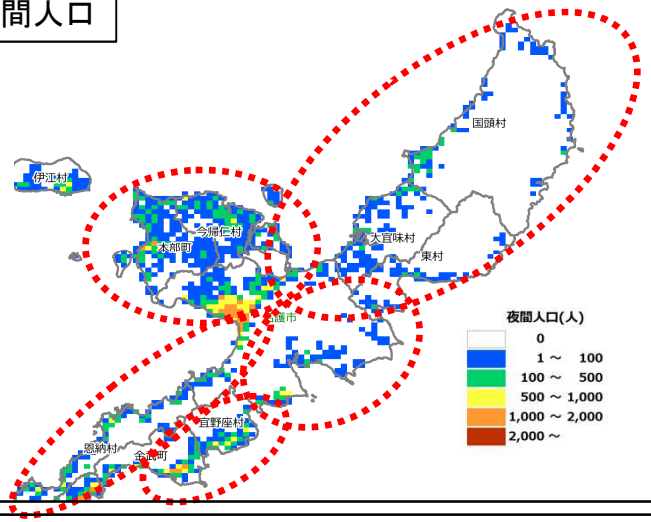
資料 沖縄県バス協会バスマップ（平成27年2月）及び村営バス等を基に作成

2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

2-2 人口分布、主要施設等【北部】

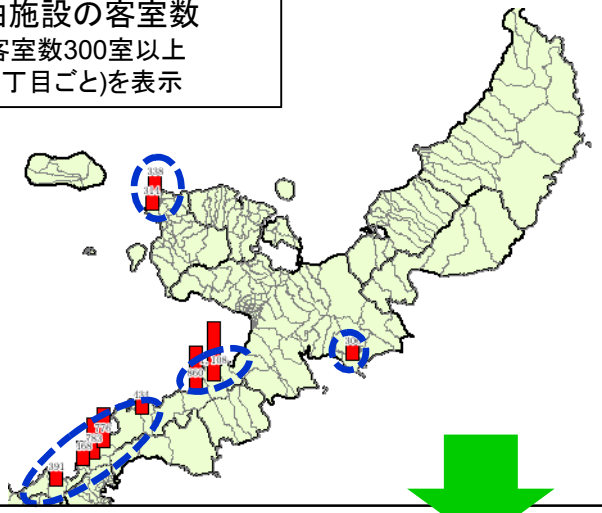
- 夜間人口は、名護市の市街地に多く、その他町村に広く分布している。
- 主要施設等は、本部港や運天港、海洋博記念公園、万国津梁館、沖縄科学技術大学院大学が立地。西海岸に宿泊施設が集積している。

夜間人口

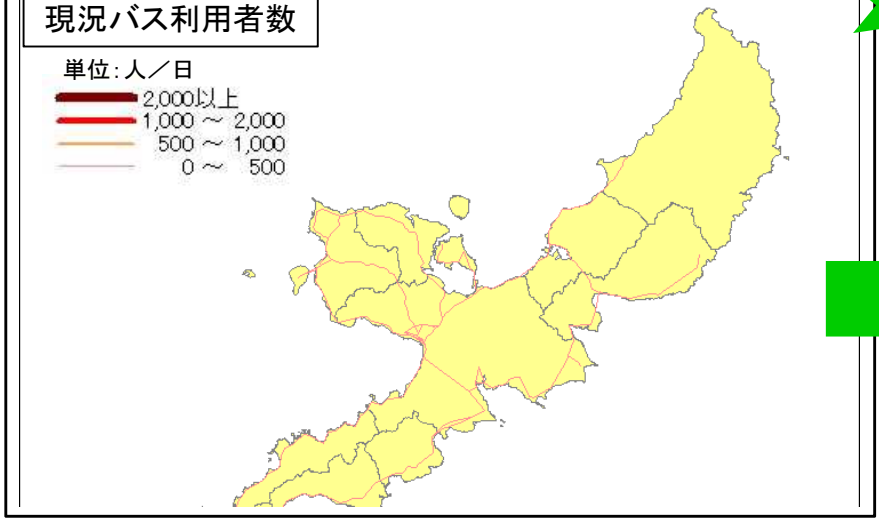


宿泊施設の客室数

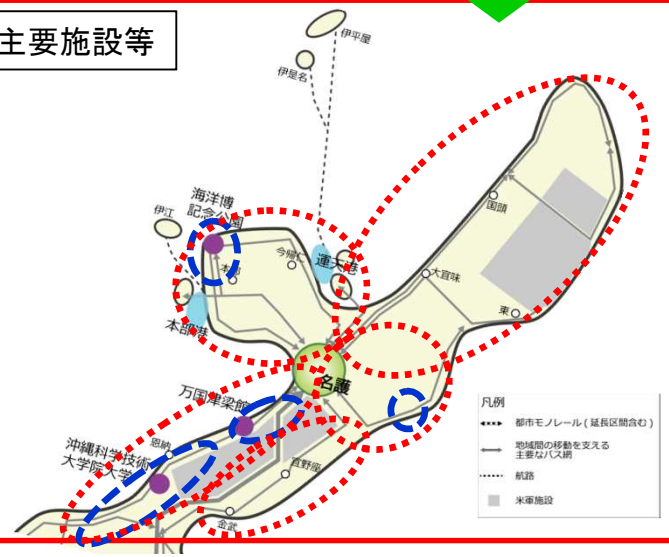
※客室数300室以上
(町丁目ごと)を表示



現況バス利用者数

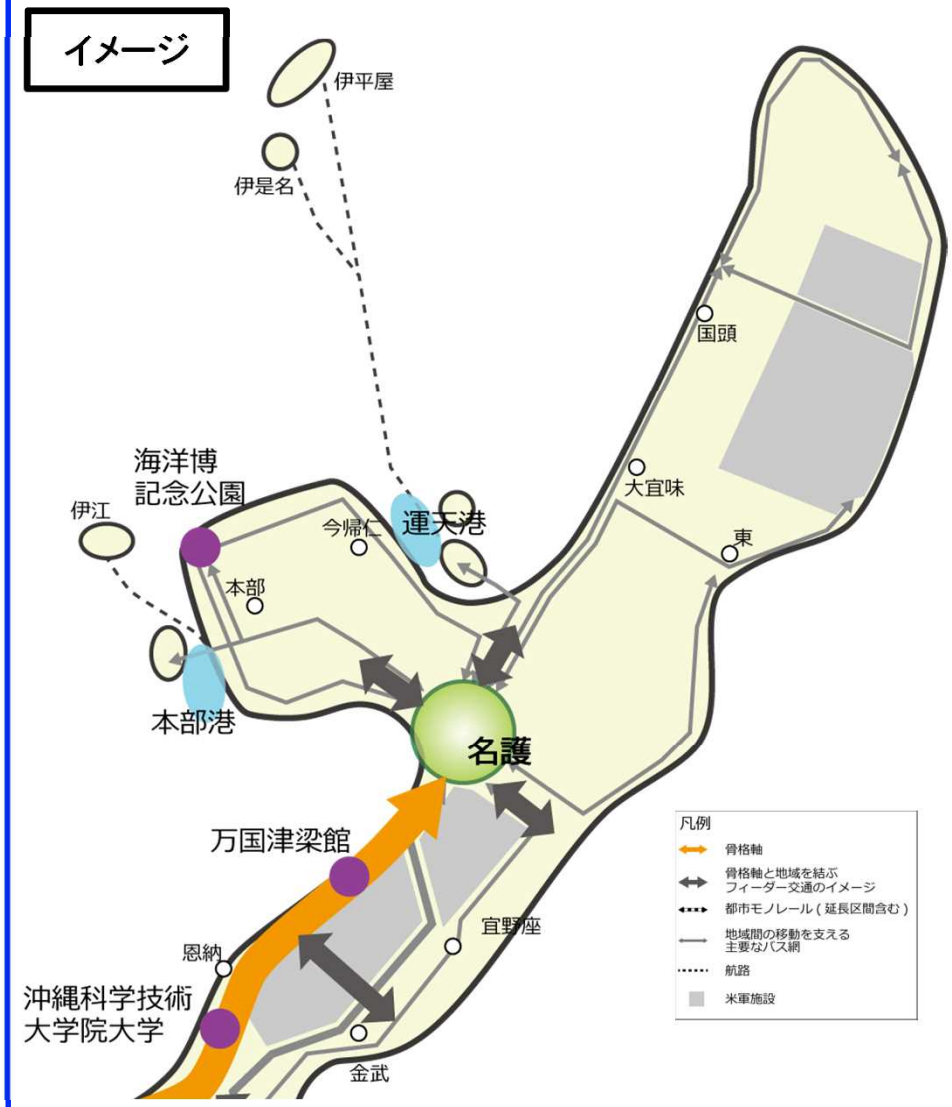


人口、主要施設等



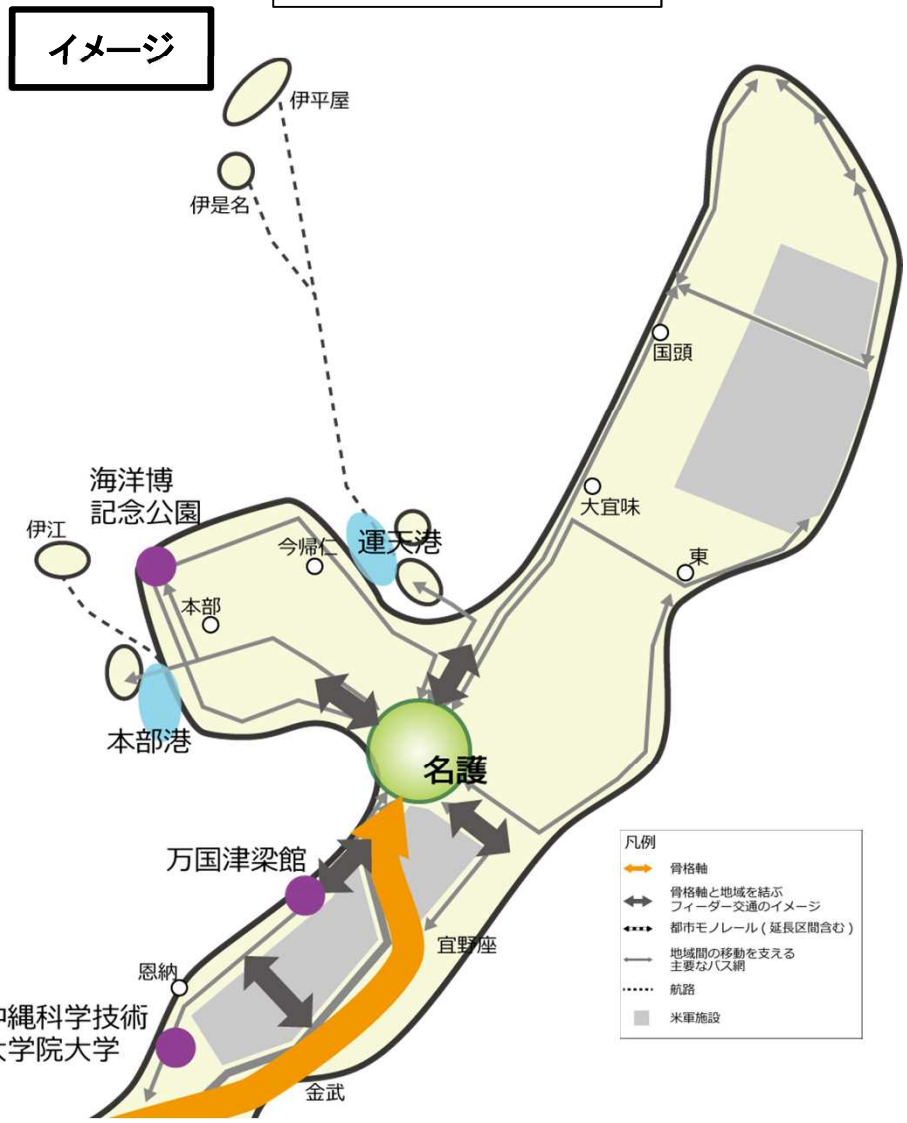
北部西ルート

イメージ



北部東ルート

イメージ

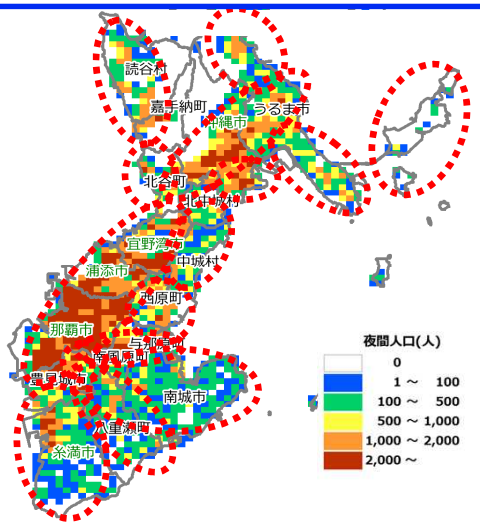


2. 地域と骨格軸を結ぶフィーダー交通の検討

2-2 人口分布、主要施設等【中南部】

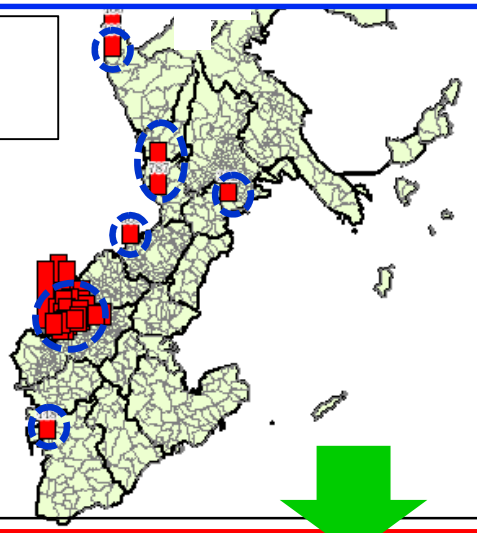
- 夜間人口は那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市に集積し、その他地域にも広く分布している。
- 主要施設等は、那覇空港、那覇港、中城湾港のほか、コンベンションセンターや大型MICE施設（建設予定）が立地。宿泊施設は、那覇市に集積し、読谷村、北谷町、宜野湾市、沖縄市、糸満市にも立地する。
- 現況のバス利用は、那覇～沖縄、那覇～与那原で多く、豊見城、八重瀬、北谷、うるまも比較的多い。

夜間人口

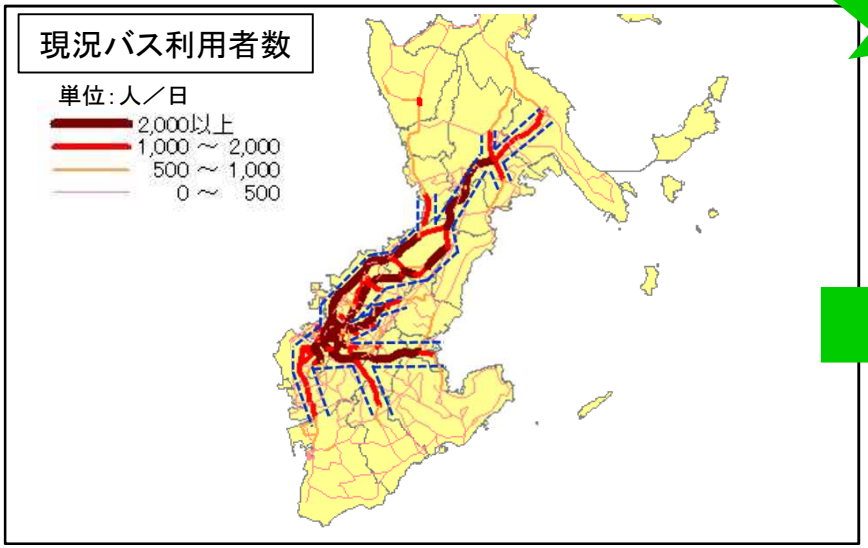


宿泊施設の客室数

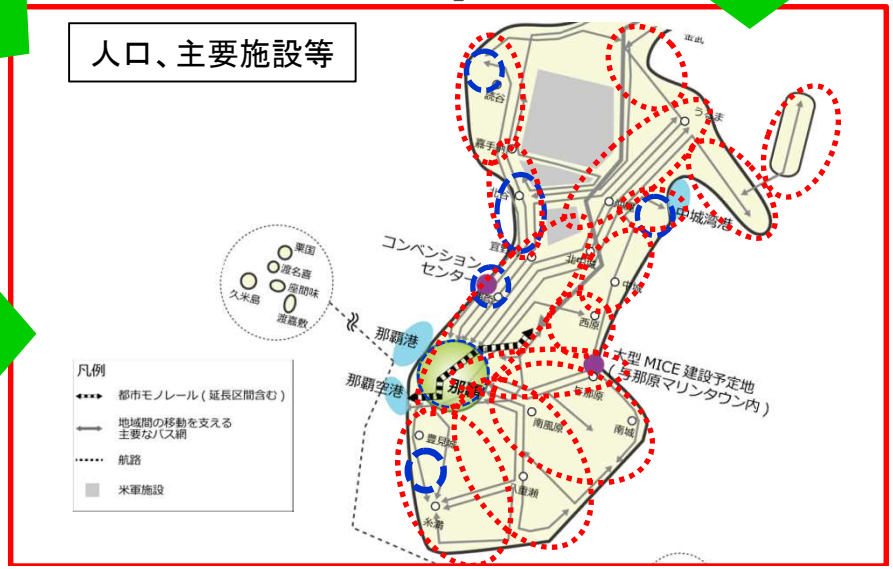
※客室数300室以上
（町丁目ごと)を表示



現況バス利用者数

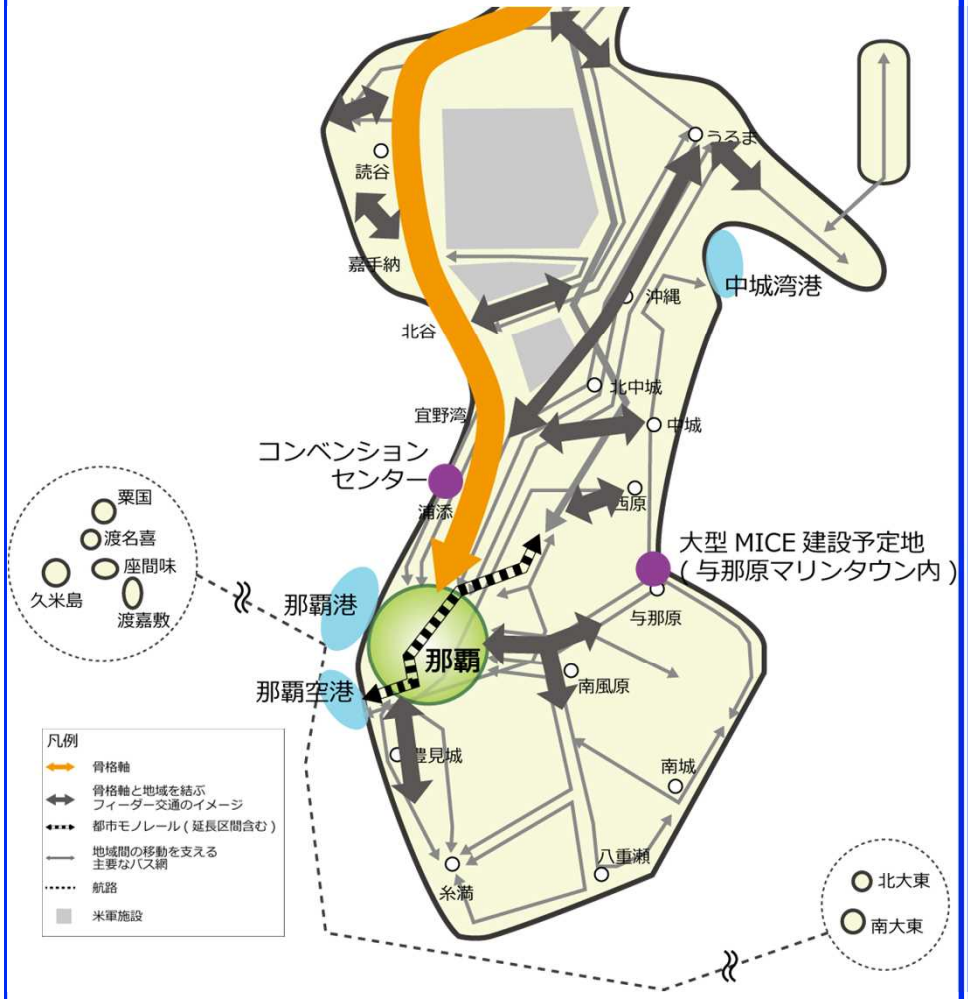


人口、主要施設等



中部西ルート

イメージ



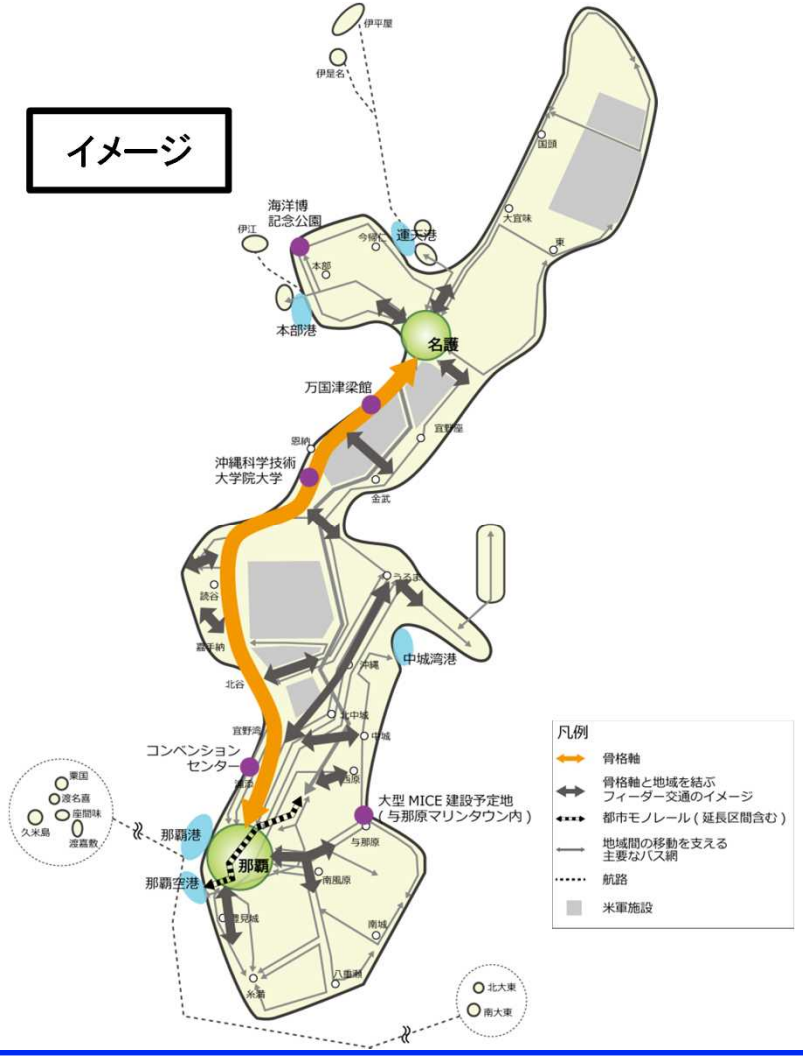
中部東ルート

イメージ

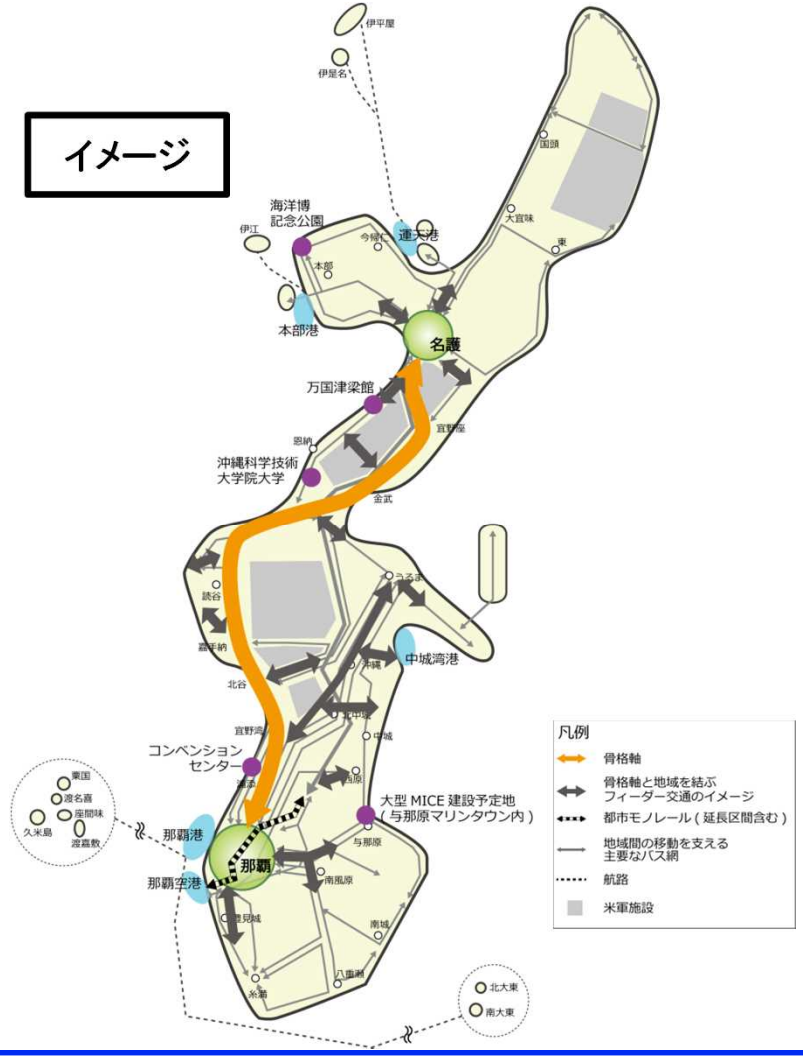
3. 骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ

- 既存の公共交通ネットワークや現況のバス利用状況等を考慮すると、各ルート案ごとの「骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ」は以下のとおりとなる。
- なお、フィーダー交通の需要等については、ステップ4で確認する（需要予測）。

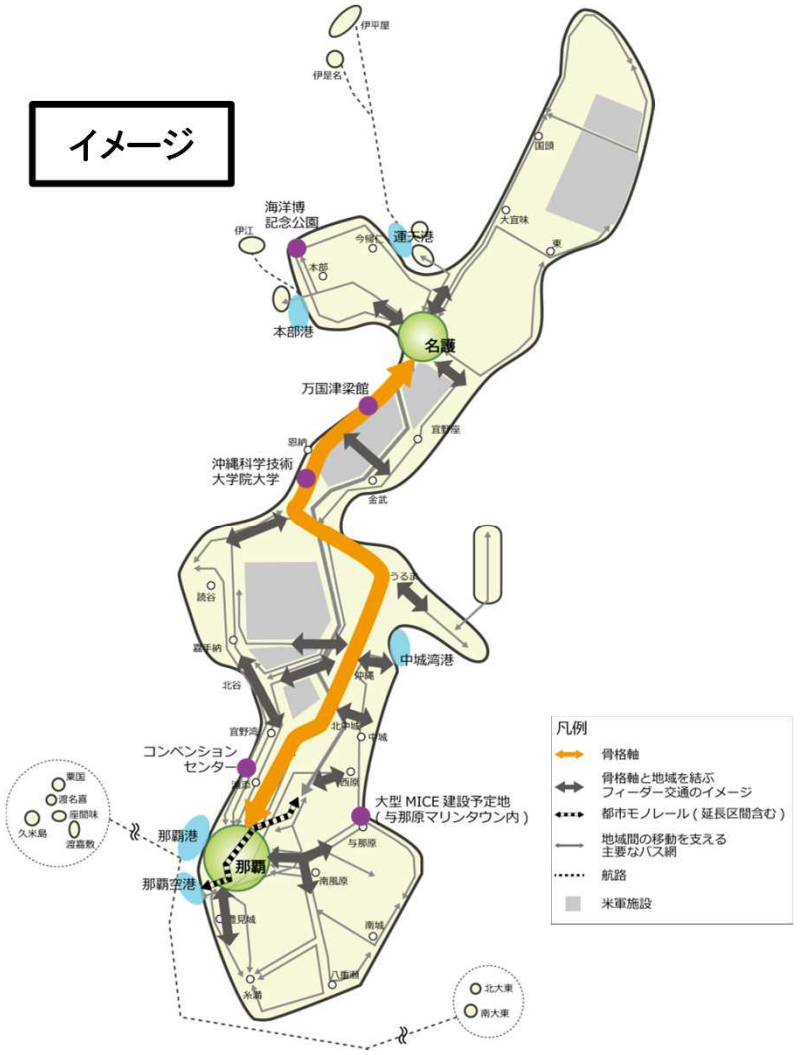
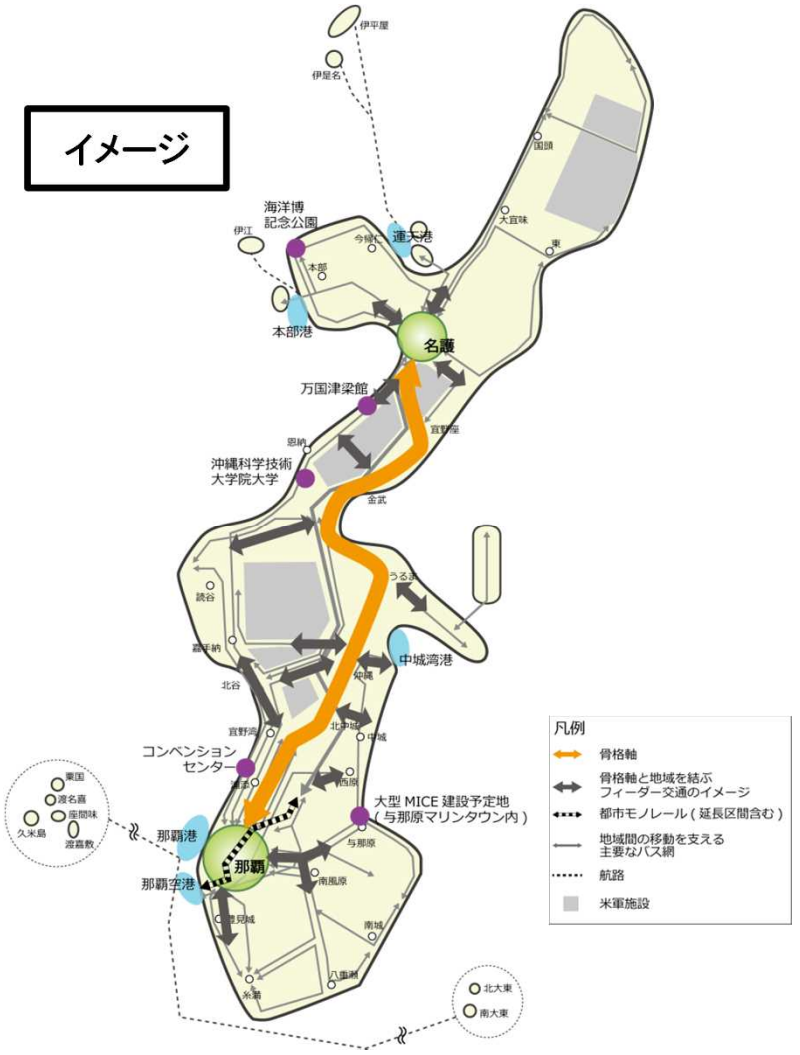
骨格軸A案（中部西・北部西ルート）



骨格軸B案（中部西・北部東ルート）



骨格軸C案（中部東・北部西ルート）



骨格軸D案（中部東・北部東ルート）